

安全データシート

作成日: 2023 年 11 月 15 日

改訂日: 2024 年 12 月 2 日

整理番号: TALC-0Q


1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称: タルク
商品名称: タルク RL217、タルク RG319、タルク MG113、タルク MG115
タルク RF-T321F、タルク MG215、タルク ML115、タルク FG105
タルク FG106、タルク FG108、タルク FL108
会社名: 富士タルク工業株式会社
住所: 〒540-0028 大阪市中央区常盤町 1-1-8
電話番号: 06-6943-9530
緊急時の電話番号: 072-268-1458(品質保証室)
FAX 番号: 072-268-1900
推奨用途及び使用上の制限: 医薬・化粧品(一部商品)、工業用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性
爆発物 区分に該当しない
可燃性ガス 区分に該当しない
エアゾール 区分に該当しない
酸化性ガス 区分に該当しない
高圧ガス 区分に該当しない
引火性液体 区分に該当しない
可燃性固体 分類できない
自己反応性化学品 区分に該当しない
自然発火性液体 区分に該当しない
自然発火性固体 分類できない
自己発熱性化学品 分類できない
水反応可燃性化学品 分類できない
酸化性液体 区分に該当しない
酸化性固体 分類できない
有機過酸化物 区分に該当しない
金属腐食性化学品 分類できない
鈍性化爆発物 区分に該当しない
健康に対する有害性
急性毒性(経口) 区分に該当しない
急性毒性(経皮) 分類できない
急性毒性(吸入:気体) 区分に該当しない

	急性毒性(吸入:蒸気) 区分に該当しない
	急性毒性(吸入:粉塵) 分類できない
	急性毒性(吸入:ミスト) 区分に該当しない
	皮膚腐食性/刺激性 分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 分類できない
	呼吸器感作性又は皮膚感作性 分類できない
	生殖細胞変異原性 分類できない
	発がん性 分類できない
	生殖毒性 分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 1 (呼吸器)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 1 (呼吸器)
	誤えん有害性 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性) 分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性) 分類できない
	オゾン層への有害性 区分に該当しない
GHS ラベル要素	
絵表示又はシンボル:	
	
注意喚起語:	危険
危険有害性情報:	呼吸器の障害 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害
注意書き:	【安全対策】 必要に応じて防塵マスクや換気装置を使用し、ばく露を避けること。 粉塵を吸入しないこと。 【救急処置】 特になし 【保管】 屋内で保管すること。 【廃棄】 産業廃棄物業者に業務委託すること。
国・地域情報:	国内法は 15. 適用法令を参照のこと。
3. 組成及び成分情報	
単一製品・混合物の区分	単一製品
化学名又は一般名:	タルク

別名： ろう石
化学式： $3\text{MgO} \cdot 4\text{SiO}_2 \cdot \text{H}_2\text{O}$
CAS 番号： 14807-96-6
官報公示整理番号(化審法・安衛法)： なし
分類に寄与する不純物及び安定化添加物： なし
濃度又は濃度範囲： 100%

4. 応急措置

吸入した場合： 特になし
皮膚に付着した場合： 水で洗うこと。
眼に入った場合： 速やかに、水で洗うこと。
飲み込んだ場合： 吐き出し、水で嗽すること。
予想される急性症状及び遅発性症状： 吸入した場合：咳
最も重要な兆候及び症状： 特になし

5. 火災時の措置

消火剤： この製品自体は、燃焼しない。
周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。
特有の危険有害性： 特になし
特有の消火方法： 特になし
消火を行う者の保護： 消火作業の際は、周辺火災に応じて適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 作業者は防塵マスクを着用し、吸入を避ける。
環境に対する注意事項： 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和： 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
封じ込め及び浄化の方法・機材： 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策： すべての発火源を速やかに取除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項： 吸入しないこと。
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
接触回避： 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

技術的対策:	保管場所には換気の設備を設ける。
混触危険物質:	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件:	屋内にて保管すること。
容器包装材料:	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度: 次の式により算定される値(鉱物性粉塵として)

$$E = 3.0 / (1.19Q + 1)$$

E 管理濃度(単位 mg/m^3)

Q 当該粉塵の遊離珪酸含有率(単位 %)

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):

日本産業衛生学会(2024 年度版): 吸入性粉塵 $1 \text{ mg}/\text{m}^3$ 総粉塵 $4 \text{ mg}/\text{m}^3$

ACGIH(2015 年度版): TLV-TWA $2 \text{ mg}/\text{m}^3$

設備対策: この物質を保管ないし取扱う作業場には換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具: 防塵マスクを着用すること。

手の保護具: 特に指定なし

眼の保護具: 特に指定なし

皮膚及び身体の保護具: 特に指定なし

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	白色微粉末
臭い:	特異臭なし
pH:	8~10
融点・凝固点:	1400°C(融点)
沸点、初留点及び沸騰範囲:	データなし
引火点:	不燃性
爆発範囲:	爆発しない
蒸気圧:	データなし
蒸気密度(空気=1):	データなし
比重(密度):	2.8
水溶解度:	不溶
オクタノール/水分配係数:	データなし
自然発火温度:	不燃性
分解温度:	950°C
臭いの閾値:	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1):	データなし

燃焼性(固体、気体): 不燃性固体
 粘度: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性: 通常の取扱い条件(常温)では安定。
 危険有害反応可能性: なし
 避けるべき条件: 特になし
 混触危険物質: 特になし
 危険有害な分解生成物: なし

11. 有害性情報

急性毒性: 経口:ラットの LD50 値として、 >5,000mg/kg (DFGOT vol. 22 (2006))に基
 づき、区分に該当しないとした。

経皮:データなし

吸入(粉塵):データなし

皮膚腐食性/刺激性: データなし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: データなし

呼吸器感受性又は皮膚感受性: 呼吸器感受性: データなし

皮膚感受性: データなし

生殖細胞変異原性: データなし

発がん性: データなし

生殖毒性: データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 本物質の急性影響を示す情報は少ない。ヒトでは、乳幼児のタルク吸入事故(濃度等詳細情報不明)により、咳、くしゃみ、呼吸困難、息切れ、嘔吐、異物反応(詳細不明)、肺の過負荷、呼吸障害、肺炎の報告がある(DFGOT vol. 22 (2006))。

実験動物では、ハムスターへの本物質(比較的高純度のタルクを産出する Vermont の作業場から採取したグラナイト(12%石英)及びタルクダスト(石英及びアスベスト不含)を使用)を用いる 0.15、3.75mg/100g 体重の気管内注入で、注入 1 日後、酵素濃度(詳細不明)の増加、肺水腫、マクロファージ食作用の抑制、ばく露 2 週間後、グラナイトばく露群では急速に回復したが、タルクダストばく露群では酵素濃度(詳細不明)増加及びマクロファージ食作用抑制が継続したと報告がある(ACGIH (7th, 2010))。

以上のとおり、実験動物及びヒトのデータは限定的であるが、呼吸器への影響が懸念されることから、区分 1(呼吸器)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 吸入経路では、ヒトにおいて、職業ばく露により、肺機能障害、X 線検査において肺の陰影の有症率増加の報告がある(ACGIH (7th,

2010))。

したがって、区分 1 (呼吸器) とした。

なお、実験動物については、ラットを用いた 113～122 週間吸入毒性試験において、0.006 あるいは 0.018mg/L で肺の変化 (肉芽腫性炎症、間質性線維化、肺胞上皮の過形成、嚢胞、肺胞の扁平上皮化生)、マウスを用いた 24 ヶ月間吸入毒性試験において、0.006mg/L 以上で肺の変化 (慢性炎症、マクロファージの集簇) がみられている (ACGIH (7th, 2010))。これらの所見は、区分 2 を超える用量でみられている。

誤えん有害性: データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性): データなし

水生環境有害性 長期(慢性): データなし

残留性・分解性: データなし

生体蓄積性: データなし

土壌中の移動性: データなし

オゾン層への有害性: 区分に該当しない

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物: 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装: 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号: 該当しない

正式輸送名: 該当しない

国連分類: 該当しない

容器等級: 該当しない

海洋汚染物質: 該当しない

国内規制

陸上規制情報 該当しない

海上規制情報 非危険物

航空規制情報 非危険物

特別の安全対策 輸送に際しては、破袋のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法： 作業環境評価基準
じん肺法： 第 2 条施行規則第 2 条別表粉塵作業
外国為替及び外国貿易法： 輸出貿易管理令別表 1 の 16 の項

16. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。

記載内容は、現時点で入手できる資料に基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

又、注意事項は、通常 of 取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は用途、用法に適した安全対策を実施のうえ、ご使用下さい。

記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。